

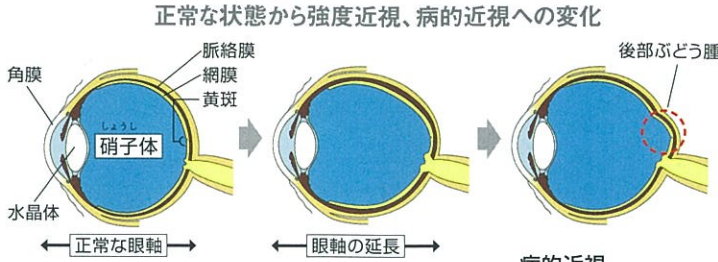
強度近視

近視の中でも強度近視(病的近視)は、視覚障害や失明の可能性もあるほか、さまざまな合併症を起こしやすい要注意の疾患。どんな病気なのか、また近年、成果を上げているという「病的近視における脈絡膜新生血管の治療」について、専門医に聞きました。



話す人・大野京子さん
おおの・きょうこ 東京医科大学眼科科学教室教授

強度近視は眼病の元凶。近視を軽視しないことが重要です。



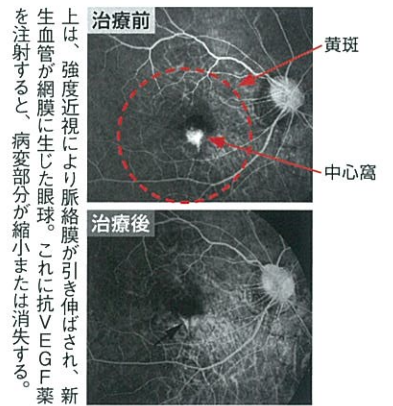
正常な状態
正常な眼の長さ(眼軸)は24mm程度。これが27mmを超えてくると強度近視へ移行。

強度近視
眼軸が伸びることで焦点が変わり、近視が生じる。眼底に異常を来しやすい危険な状態。

病的近視(後部ぶどう腫)
網膜や脈絡膜がさらに引き伸ばされぶどう腫が出ると、眼底にさまざまな病変が起こる。

近視は日本人の約6割にみられ、強度近視の推定患者数は20人に1人。「近視とは、実は裸視力のことではなく、眼軸が伸びることを言います。強度近視では眼球が後方に引き伸ばされるために、ものを見るのに重要な網膜の中心部(黄斑部)が障害されやすくなり、深刻な視覚障害を起こす可能性があります」と大野京子さん。眼球の長さは小児期から青年期にかけて延長し、遺伝も関係すると言われています。コンタクトのレンズの度数(デジオプター)でいうと、-6D以上が強度近視、-8Dを超えるものが病的近視の目安。病的近視は、強度近視が進行し眼底の病気を伴うものを指します。

脈絡膜新生血管の最新治療



「糖尿病はよく病気の元凶と言われますが、眼科領域では、強度近視がまさにそれ。要注意なのです。強度近視の人の緑内障の罹患率は、正常な人の3倍以上。さらに白内障や黄斑部出血、網膜剥離といった合併症を起こしやすいことがわかっていきます」

病的近視による脈絡膜新生血管も、合併症の一つです。「目は光を通す作用があり、血管のない透明な構造をしています。ところがこの病気は、破れやすい新生血管が網膜に侵入し、黄斑部で出血すると視野に黒い部分ができたり視界のゆがみが発生します。放置すると、5年〜10年後には約9割の人が矯正視力で0・1以下になってしまう怖い病気です」

最近、近視が進んでいるなどの自覚症状がある人は、「強度近視の専門外来を受診し、視力、屈折度、眼軸長の検査や眼底検査を受けて。普段から片

目ずつ見え方をチェックしておくことも大切です」と大野さん。注目すべき最新治療は、抗VEGF薬治療です。「新生血管の発生にはVEGFという物質が関与しており、この働きを抑える薬を眼球に注射します。半数の方は1回の注射でよくなり、早期に治療すれば再発はほとんどありません。強度近視は10代から患者がいて、50代が発症のピーク。その方たちの5年後、10年後の予後を変えたいという意味では、非常に意味のある治療です。躊躇せず早めに治療を受けてほしいですね」

おおの・きょうこ 専門は強度近視と網膜硝子体疾患。2014年、東京医科大学眼科科学教室教授に就任。病的近視による失明撲滅を目標に掲げ、治療・研究に取り組んでいる。

おいかわ・ゆうこ 医療ライター。メノポーズカウンセラーや健康食品コーディネーターの資格を生かし、美容・医療分野の取材執筆を中心に活動。



あきらめていませんか? **今これ、治せるかも。**

※治療法、効果には個人差があります。必ず専門医にご相談ください。